

「地域の脱炭素交通モデル構築支援事業（自動車 CASE 活用による脱炭素型地域交通モデル構築支援事業）」  
採択について

1 採択された事業名

環境配慮型・観光 MaaS（仮称：日光 MaaS）導入プロジェクト

2 事業者

| 事業者名              | 主な役割            |
|-------------------|-----------------|
| 東武鉄道              | MaaS システム構築/運用  |
| JTB               |                 |
| 栃木県               | EV 充電器設置/運用     |
| JTB コミュニケーションデザイン |                 |
| オリックス自動車          | EV カーシェア車両設置/運用 |
| トヨタレンタリース栃木       |                 |

3 事業概要

日光地域は、日光国立公園などの豊富な環境資源を有し、年間 1 1 0 0 万人が訪れる一大観光地ですが、約 7 割がマイカーを利用し訪れています（栃木県調べ）。このようななか、栃木県では日光地域をモデル地域として、二次交通の利便性向上や EV の導入促進による環境負荷低減などの「環境にやさしい観光地づくり」を推進しており、今春には、奥日光エリアで運行する低公害バスが EV 化されました。

このような栃木県の取り組みを踏まえ、「環境にやさしい観光地」としての日光地域のブランドを強化していくとともに、観光地における脱炭素の取組みのロールモデルとなることを目指し、そのファーストステップとして、鉄道・バスをセットにしたお得なデジタルきっぷのほか、EV・PHV カーシェアリングや電動シェアサイクル、EV バス等の環境にやさしいモビリティと、歴史・文化施設等の拝観・入場チケット、ネイチャーアクティビティ等の観光コンテンツを、スマートフォンから簡単に、検索・予約・決済できるワンストップサービスの構築に取り組んでまいります。